

尼崎市立学校の令和3年度いじめの 認知状況について

はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

(1) 調査の目的

生徒指導上の諸課題の現状を把握することにより、今後の施策の推進に資するものとする。

(2) 調査の沿革

児童生徒の問題行動等は、教育関係者のみならず、広く国民一般の憂慮するところであり、その解決を図ることは教育の緊急の課題となっていることに鑑み、児童生徒の問題行動等について、事態をより正確に把握し、これらの問題に対する指導の一層の充実を図るため、毎年度、暴力行為、いじめ、不登校、自殺等の状況等について調査を行っている。

なお、調査の結果は、効果的な施策を講じるための基礎的なデータであることから、調査開始以降、調査項目や調査対象については随時追加・見直しを行っている。

(3) 調査の対象（いじめの状況等）

国公立小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、都道府県教育委員会、市区町村教育委員会

はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

(I) 文部科学省の公表資料

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1302902.htm



● 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

1、調査の概要

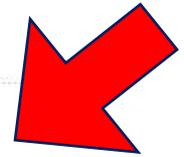
- 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査の概要

2、調査の結果

- 統計表一覧(※政府統計の総合窓口(e-Stat)のホームページへリンク)

3、各年度の調査結果(PDF)

- 令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 (PDF:1,146KB) 
- 令和3年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要 (PDF:1,437KB) 
- 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 (PDF:4,994KB) 
- 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果概要 (PDF:2,974KB) 



はじめに

「児童生徒の問題行動・不登校等 生徒指導上の諸課題に関する調査」

(2) 兵庫県の公表資料

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~board-bo/toukei.html>



[文部科学省教育統計情報](#)

学校等、文部科学省が実施する統計調査の結果概要へのリンクです。



各種統計資料

[令和3年度 兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況](#)

令和3年度兵庫県下の公立学校児童生徒の問題行動・不登校等の状況について、次の4項目を掲載しています。

- I 暴力行為
- II いじめ
- III 長期欠席（不登校等）
- IV 県立高等学校における中途退学者等の状況
(IVについては、県立高等学校及び中等教育学校後期課程分)

1 いじめの認知件数

<尼崎市立学校における認知件数>

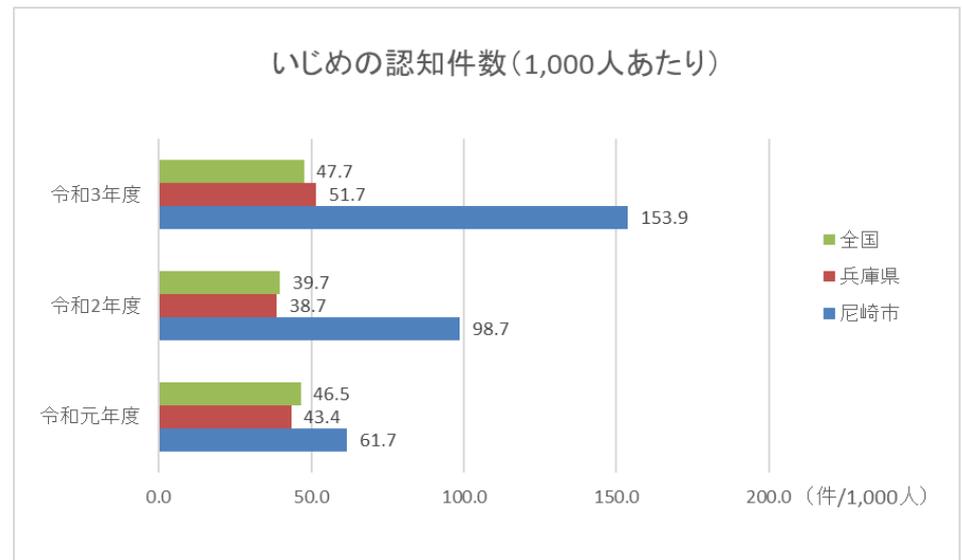
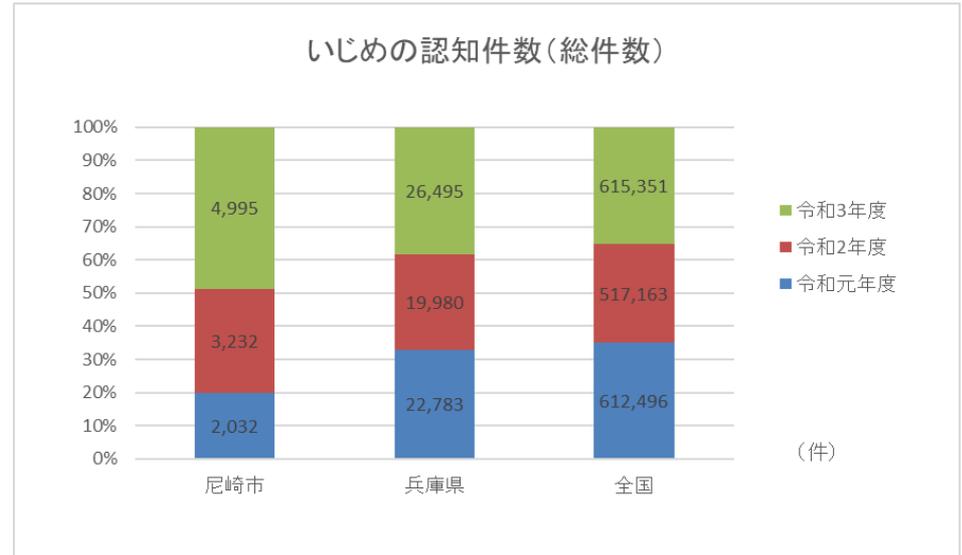
- ・令和3年度の件数は、小学校で4,278件、中学校で696件、高等学校で21件、合計4,995件。
- ・年々増加傾向にあり、令和元年度と比べて、令和3年度の件数は倍以上になった。

<兵庫県や全国における認知件数>

- ・兵庫県と全国のどちらにおいても、令和2年度の件数は前年度より減少したが、令和3年度には再び増加した。

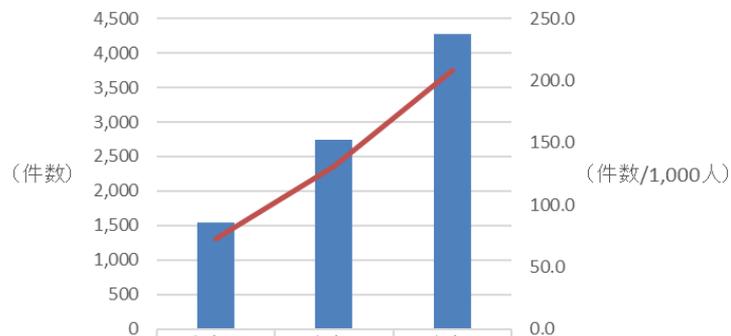
<考えられる要因等>

- ・尼崎市では令和2年度より、“いじめ認知報告書”を簡略化し、学校から市教育委員会への報告が速やかにできるよう改善した。
- ・市教育委員会の指導主事が市立の全小中高等学校を訪問し、いじめ認知や対応に関する教職員研修を行った。
- ・のびよ尼っこ健全育成事業などを通じて、いじめや希死念慮といった課題に関する講演会等を行い、現在の子ども達を取り巻く課題を知る機会を設けた。



(資料) いじめの認知件数(小・中・高)

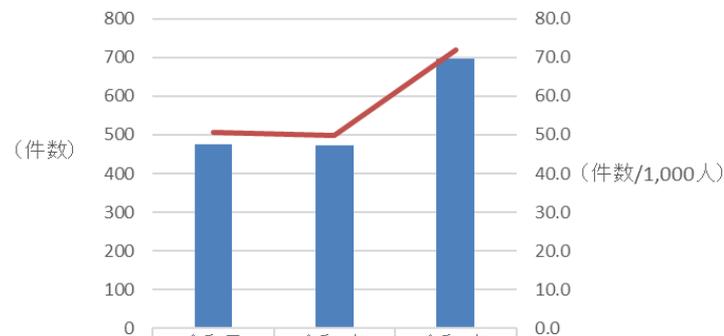
いじめの認知件数(尼崎市立小学校)



総件数	1,536	2,744	4,278
1,000人あたりの件数	72.3	131.1	208.7

■ 総件数 ● 1,000人あたりの件数

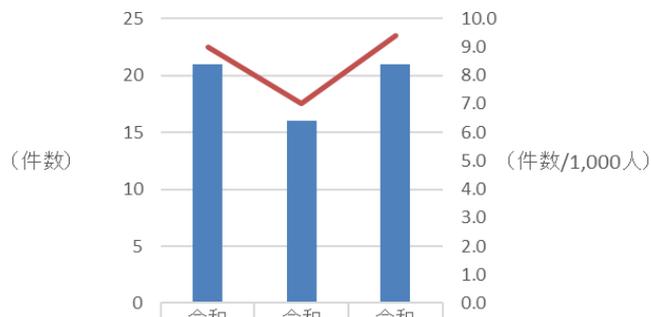
いじめの認知件数(尼崎市立中学校)



総件数	475	472	696
1,000人あたりの件数	50.7	49.8	72.0

■ 総件数 ● 1,000人あたりの件数

いじめの認知件数(尼崎市立高等学校)



高等学校総件数	21	16	21
高等学校1,000人あたりの件数	9.0	7.0	9.4

■ 高等学校総件数 ● 高等学校1,000人あたりの件数

2 いじめの発見のきっかけ

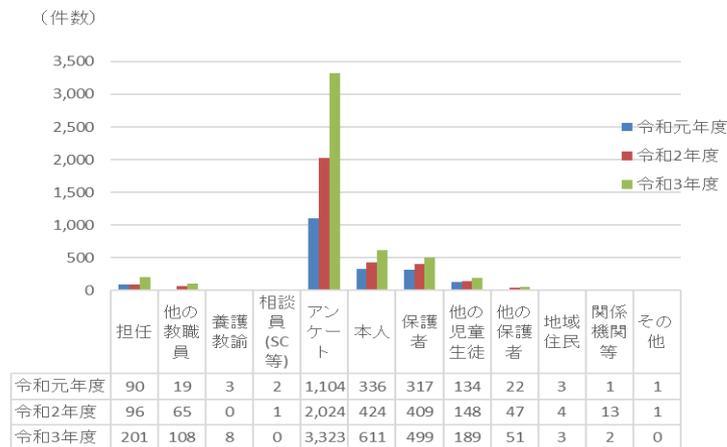
<発見のきっかけの推移>

- ・令和3年度は、「アンケート調査などの学校の取組により発見」が最も高く、次いで「児童生徒(本人)からの訴え」、3番目に「保護者(本人を除く)からの情報」が多くなった。
- ・過去3年間を通じて、「アンケート調査などの学校の取組により発見」が半数を占めている。
- ・構成比の波形が、過去3年間においては、類似している。

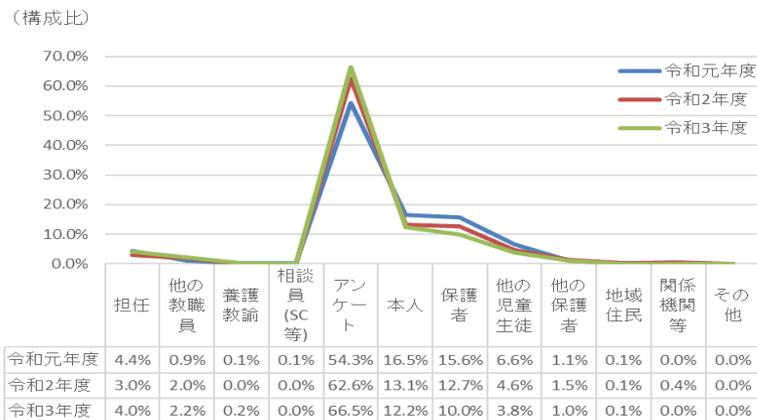
<必要な取組み等>

- ・新型コロナウイルス感染症によって、学校や家庭における生活や環境が大きく変化し、不安や悩みを相談できない子ども達がいることを考慮した対応。
- ・自他の理解を深め、豊かな人間性を育むとともに、子ども自身が傍観者ではなく、当事者として問題を解決していこうとする集団づくり。
- ・多様で専門的な子どもに関する相談内容にも対応できる、連携や支援体制の強化。

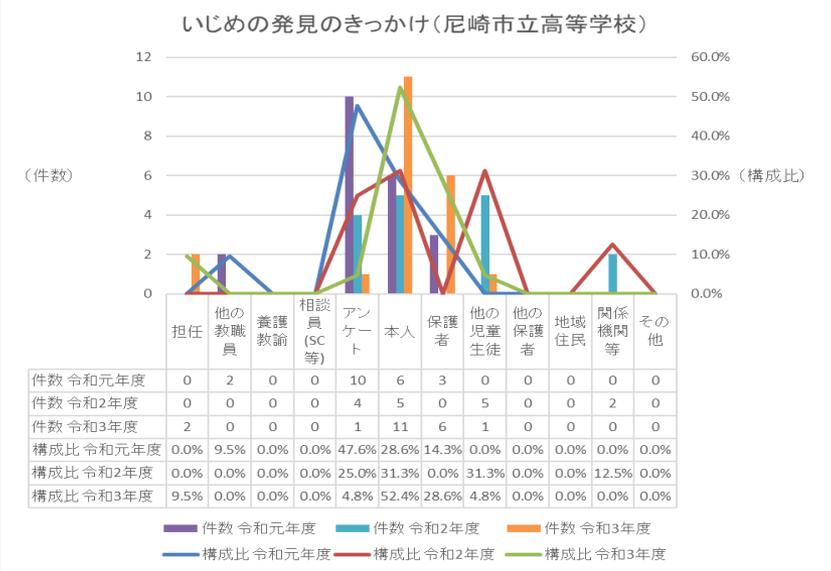
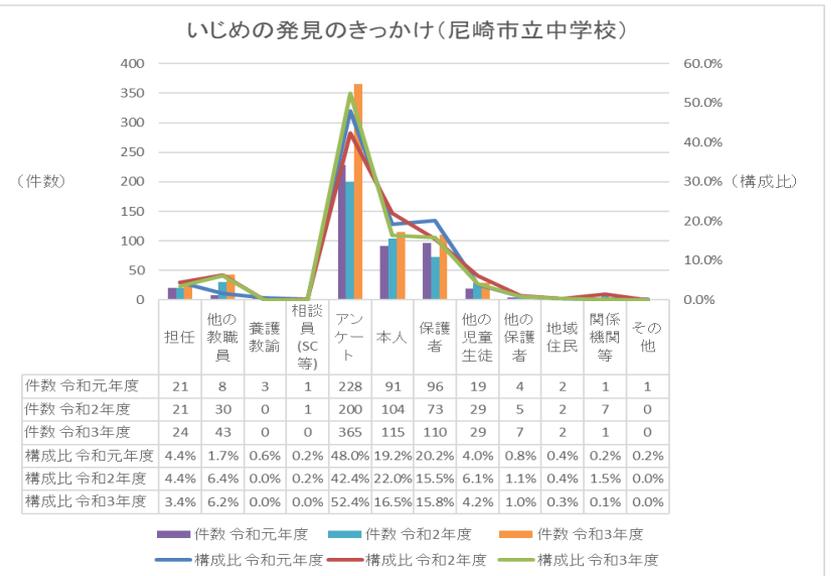
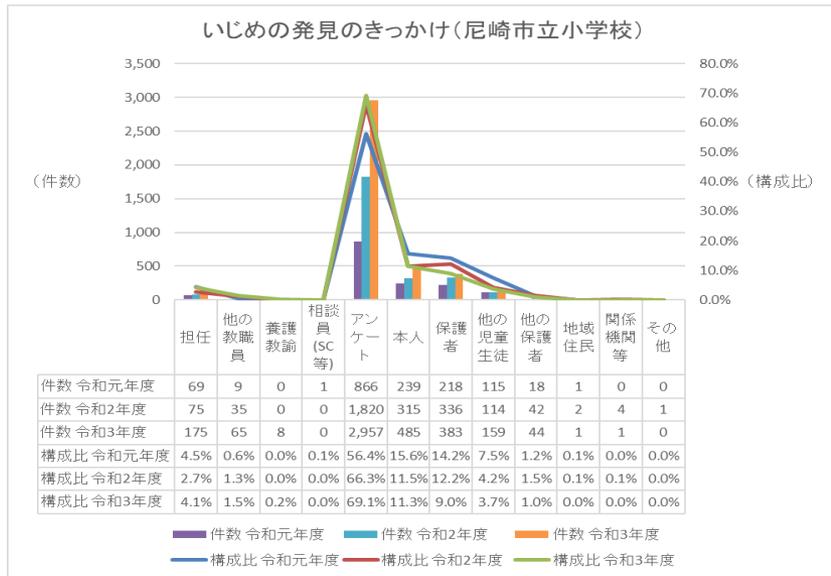
いじめの発見のきっかけ(尼崎市:件数)



いじめの発見のきっかけ(尼崎市:構成比)



(資料) いじめの発見のきっかけのR1～R3推移(小・中・高)



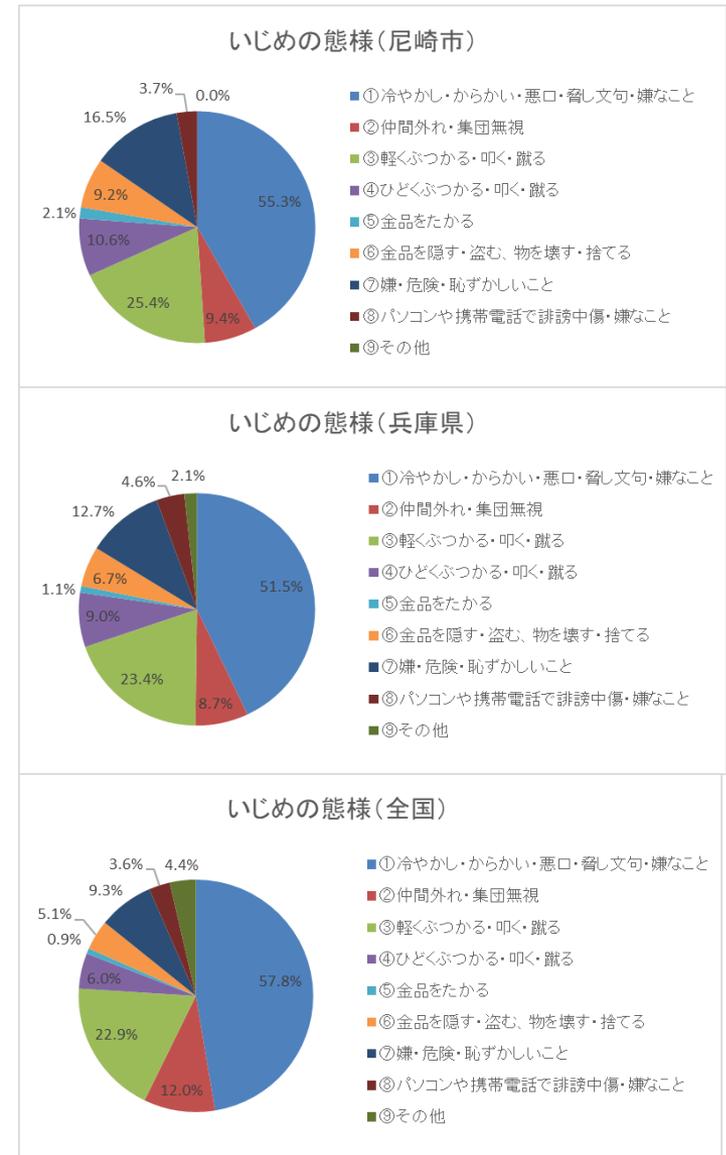
3 いじめの態様

<態様の構成内訳>

- ・令和3年度は、尼崎市、兵庫県や全国で共通して、「冷やかしからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が半数以上となり、最も多くなった。
- ・次いで、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする」の構成比が高かった。
- ・高等学校においては、「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」が3番目に多かった。

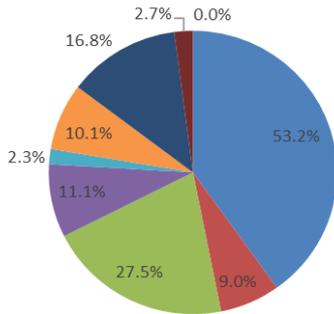
<進めている取組み等>

- ・市教育委員会では、いじめの態様が様々であっても、全教職員がいじめについて理解を深め、組織的な対応をより丁寧に行えるための指導と支援の方法について、検討している。
- ・情報モラルの向上を図るため、学校での支援員による出前講座や、スマホサミットの開催などを継続的に実施している。
- ・児童生徒が主体的にスマホルールやネットの活用について考える機会を設け、また、好事例を発信する。



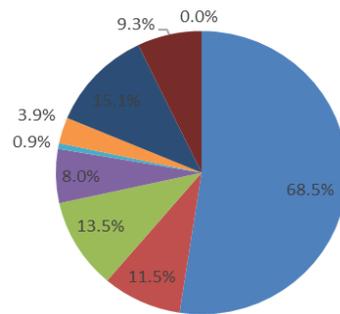
(資料) いじめの態様のR3内訳(小・中・高)

いじめの態様(尼崎市立小学校)



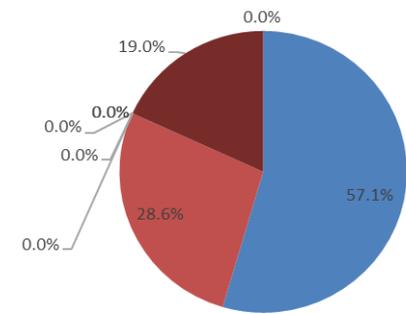
- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む・物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他

いじめの態様(尼崎市立中学校)



- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む・物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他

いじめの態様(尼崎市立高等学校)



- ①冷やかし・からかい・悪口・脅し文句・嫌なこと
- ②仲間外れ・集団無視
- ③軽くぶつかる・叩く・蹴る
- ④ひどくぶつかる・叩く・蹴る
- ⑤金品をたかる
- ⑥金品を隠す・盗む・物を壊す・捨てる
- ⑦嫌・危険・恥ずかしいこと
- ⑧パソコンや携帯電話で誹謗中傷・嫌なこと
- ⑨その他